

令和五年度 教友会事業報告

本年度は年度の途中から新型コロナウイルス感染症が五類に移行となったため、感染防止に配慮しながら多くの事業が開催できるようになりました。

I 本部常任委員会を開催

五月十三日(土)午後二時～教育学部附属教育実践総合センターにて対面で開催しました。感染防止の対策を講じた上での開催となりました。

総会に向けた準備の会となり、役員・幹事など二十三名が出席。議案はすべて可決されました。

II 教友会総会を開催

六月十七日(土)午後二時～ホテルブリランテ武蔵野にて開催しました。

令和四年度の事業報告・決算報告を初め、令和五年度事業計画案・予算案等の審議が行われました。議事内容は総て承認されました。

なお、卒業五X周年同窓会の関係では、来年度(令和六年度)開催の学年理事に対して、開催の予告及び開催の説明を行いました。

本部常任委員を初め、学年理事等合計七十九名の出席での開催となりました。なお、コロナウイルス感染症に配慮し、懇親会の開催は中止しました。総会については、本誌二十九ページをご覧ください。

III 教員採用試験対策

(一)教員採用試験対策講座の開催
これまで開催してきた対面での寄附講座は、以前購入した時事

通信社版の「教職D V D講座」を利用していただき、視聴による講座に代えま

した。D V Dの時間は一コマ九十分で、七十五コマから選択して視聴可能です。

来年度からは、終身会員の学生がアクセスして視聴可能となるよう検討しています。

(二)模擬個人面接の開催

教員採用試験二次試験対応の模擬個人面接が教友会から面接員を推薦して開催されました。

今年度は、三日間、五教室を使用して開催。延べ百六十人の参加がありました。今年の採用試験の倍率は小学校では、埼玉県一・九倍、さいたま市二・二倍と低い倍率となりました。

教友会としては、後輩たちが教員採用試験で百パーセント合格することを願っております。

IV 事務局が移転し三年目

令和三年九月に埼玉大学教育学

部附属教育実践総合センター内に移転し、今年度は三年目となりました。

新事務局での事業の推進、事務処理等順調に進めることができました。新事務局では、事務職員が常駐していないため、ご連絡、ご質問等は、メールかFAXでお願いしております。

V 鳳翔賞―顕彰事業―

教育学部では「力量のある質の高い教員」になることが期待される学生のうち、特に成績優秀な者を顕彰してきました。教友会は顕彰者に対してこれまで記念のレリーフを贈呈してきました。なお、第十七回贈呈式は三月に予定されています。

VI 埼玉大学ホームカミングデー

今年度のホームカミングデーも、埼玉大学と埼玉大学同窓会の共催により実施となりました。

今年度は、埼玉大学は師範学校の前身である埼玉県改正局が教員養成を始めてから百五十周年になるのを期に、埼玉大学創基百五十周年記念の年として、各種イベントを実施。ホームカミングデーもその一つとして記念講演を行いました。

このことについての詳細は、二十五～二十八ページをご覧ください。

VII 新会報「教友」の二回目となる発行

教友会では、これまで卒業生向けの会報「教友」と学生向けの会報「学友」を発行してきました。

学友の発行については、大学の「教職支援室」が充実した運営がなされるようになったため、一昨年をもって廃刊としました。

そのため、教友会からの会報は「教友」のみとなりました。

これまでも内容の一部をホームページに公開してきましたが、本号から全面公開することにしたので、ホームページもご覧ください。

いつでもアクセスできますので、是非ご利用いただきたいと思います。

VIII 学生終身会員に「会員カード」を送付

入学時に会費を納入し、終身会員として登録していただいております。領収書の送付という意味もあり、今年度は百九十名の方に「終身会員カード」を送付しました。

入会率は学部生四十七パーセント、院生四パーセントで、平成十六年以降の入会率は七十四パーセントになっております。ここ数年低下傾向が続いております。いつでも入会できますので、周囲の方に勧めてください。

終身会員カードは、附属学校園で開催される研究協議会等に学生として参加する際必要となりますので、大切に保管してください。